～「I HOPE.」を掲げ、希望を発信する KANEBO ブランドのアクション～

世界子どもの日に向けた体験型イベント「CREATE HOPE ON STAGE―つくって、まとって、わたしが主役―」

「日比谷シネマフェスティバル 2026」内にて、10 月 11 日（日）開催。

「I HOPE.」を掲げ、美ではなく、希望を発信するブランド「KANEBO」は、11 月 20 日の「世界子どもの日」によせ、子どもたちがひらめきのままに手を動かし、自分自身を表現するワークショップイベント「CREATE HOPE ON STAGE―つくって、まとって、わたしが主役―」を、東京ミッドタウン日比谷および日比谷公園にて、2026 年 10 月 11 日（日）に開催しました。
本イベントは、「HIBIYA CINEMA FESTIVAL 2026」のプログラムの一つとして実施したものです。商品の空箱や美容部員の制服など、役目を終えた素材を活用し、子どもたちが自由な発想で“なりたい自分”を表現しました。



アップサイクル素材を使って。思い思いに自分を表現



会場では、商品の空箱や美容部員の制服など、役目を終えた素材を使ったワークショップを実施しました。身近な素材たちは、子どもたちの豊かな創造力によって、マントやスカート、ネックレス、時計、魔法のステッキなど、自分自身を表現するさまざまなアイテムへと生まれ変わりました。

美容部員のスカーフが、色鮮やかなリボンやシールに

特に子どもたちに人気だったのは、美容部員のスカーフをリメイクしてつくったリボンやシール。美しいグラデーションと豊かな色彩をもつスカーフから生まれた素材を前に、子どもたちは楽しそうに迷いながら、気に入った素材を選びました。

選んだリボンを結んで貼り付けたり、ペンで描いた自由な線とシールを組み合わせて美しい模様をつくったり。「楽しいね」「嬉しいね」と親子で会話し、「家でもやってみようか」という声も。子どもたちは一人ひとりの感性を生かしながら、思い思いにつくり上げていました。







工作に加え、ヘアスタイル体験や撮影も

東京ミッドタウン日比谷の地下広場では、制作したアイテムをさらに引き立てるヘアスタイル体験も行いました。完成した衣装や小道具に合わせたヘアセットを楽しみ、保護者からは「男の子のヘアセットの仕方が勉強になった」という声も。はじめは緊張していた子も、工作が始まると次第に表情がほぐれ、「ヘアスタイル体験もやりたい！」とどんどん積極的に。どの子も体験が進むにつれて笑顔を見せてくれました。最後はつくったものを身にまとい、自分らしい表情でポーズ。撮影した写真はプレゼントとしてお渡ししました。自分の写真を見た瞬間みんなとても嬉しそうな表情を見せてくれ、家族全員での撮影も楽しみました。





造形あそび作家 STUDIO pippi さんの言葉



今回のワークショップの素材づくりや制作方法を考案したのが、造形あそび作家の STUDIO pippi さん。「役目を終えた美容部員さんの色鮮やかなスカーフを見て、『これは絶対に使いたい』と思いました。いろいろな使い方ができるように、リボン状にしたり、シールにしたり。ネックレスや時計に使う化粧品の外箱は、あえてきれいな線で切ったり、整った四角や三角にしたりせず、さまざまなランダムな形にしています。正しい形、整った形にしてしまうと、子どもたちが『正しく並べないといけない』と思ってしまうからです。自由に組み合わせて蝶々のような模様をつくってくれた子もいて、とても感動しました。」

青空の下で、魔法のステッキづくり

日比谷公園の芝庭広場では、魔法のステッキづくりのワークショップを行いました。美容部員のスカーフをアップサイクルしてつくったリボンやギフト用リボンなど、色とりどりのリボンの中から好きなものを選び、使わなくなった口紅などの外箱にセットしてつくりました。気持ちのよい秋晴れの青空の下で、子どもたちはのびのびと工作を楽しみ、完成した魔法のステッキを手に走り回ったり、キラキラと輝くリボンを風にたなびかせる姿も。芝庭広場は子どもたちの笑顔でいっぱいになりました。つくり終えたらレッドカーペット風の特設の撮影ステージへ。お気に入りのステッキが完成したわくわくした表情とともに、堂々とレッドカーペットを歩き、自分らしくポーズを決めてくれました。





参加した保護者の方の声



「2 年前の KANEBO の子ども向け体験型アートイベントでつくったタペストリーを、今でも子どもが気に入っていて、部屋に飾っています。今回も子どもが行きたいと言ったので参加しました。」

「子どもがすごく集中して楽しんでいて、いつもとは違う真剣な姿を見ることができたのも嬉しかったです。化粧品の箱は、子どもたちにとって普段の工作素材とは違う特別感があり、嬉しそうです。」

「子どもと一緒に出かけて、いろいろなことを体験してほしいと思い、子どもを連れて行けるワークショップやイベントをいつも探しています。役目を終えた素材を使って、クリエイティブなことができる子ども向けイベントは嬉しいです。」

「子どもたちは学校でも SDGs について学んでいますが、アップサイクルや SDGs を実際に体験でき、さらに自由につくれることに魅力を感じました。」

個性を輝かせることができる世界と、ワクワクする未来を目指して

子どもたち一人ひとりが、自分のための物語の「主人公」になる。そんな体験を通じて、「わたしの人生の主役は、わたし。」という思いが、明日への希望につながってほしい。KANEBO は、そう願っています。

今回のイベントでは、役目を終えた素材が、子どもたちの自由な発想によって新たな価値を持つアイテムへと生まれ変わりました。子どもたちは、つくること、身にまとうこと、そして自分らしく表現することの喜びを体験しました。

これからも KANEBO は、個性を輝かせることができる世界と、ワクワクする未来を目指し、子どもたちの創造性を広げ、個性を伸ばしていくお手伝いを続けてまいります。一人ひとりが自分らしく輝き、希望あふれる未来へ向かっていくための、さまざまな取り組みを実施していきます。